瀬戸会館だより
平成２５年１１月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

瀬戸・寿　子ども太鼓台

新居浜秋祭りの初日１０月１６日（水）、朝早くから瀬戸・寿子ども会の会長原真文さんらお父さんたちは瀬戸会館に集まっていた。先日組み立てたばかりの太鼓台に、金糸銀糸でまばゆいばかりの飾りを取りつけはじめ、天幕も張る。お母さんたちは子どもが着用するハッピの準備等に忙しい。

やがて授業が終わった小学生たちが駆け足で当館に走り込み、用意されたハッピに袖を通して互いにニッコリ、外に飛び出す。メンバーが揃ったところで全員胸を張り、記念に残す写真を一枚パチリ。そしてマイクを通して「トザイトーザァ～イ！・・・」と可愛い声で預かった「お花」の披露をする。

いよいよ宮入りのため氏神である浦渡神社へ向けて「チョーサ～ジャー！」の掛け声と共に出発。神社に到着すると、子どもたちは冷たいドリンクを手にしばし休憩。子ども会役員のお父さん３名は皆さんを代表して拝殿で祈祷を受け、太鼓台も神職から御祓いを受けた。

帰りは町内を巡りながらの運行だったが、前後の安全を確認しながらの太鼓台の移動は、お父さん方にとっては大変だった。本当にご苦労さんでした。

軽スポーツ大会

１０月１日（火）の午後、当館２階で標記の大会が開かれ、８０人を超える人の熱気でいっぱいになった。この大会への参加者は、毎週木曜日に当館でゴム製のバルーンを用いた運動をしている「レインボー体操」の皆さんのお仲間で、当館以外の会場で活動する人も加わっていた。

主催者の一人は「いっときの間、頭をカラッポにして運動に精を出しましょう」と挨拶。続いて末田先生の指導でケガのないよう入念に準備運動をする。そのひとつに、片足で立ったままで秒数を数えていくのだがその途中、「そこで目をつぶって！」と指示がとぶ。次の瞬間ドッと笑いの反応があり、床に足をつく音がする。

いよいよ競技開始。種目は「輪投げ」と「ダーツ」の２種類。１チーム３名の団体戦だが個人の記録も残され、それが表彰（賞品）につながる。最初の競技は「輪投げ」で、ＡとＢの二つのコートで実施。１人が９個の輪を投げるのだが意外にむづかしい。だんだんと熱がこもってきて、体を大きくよじって「はがいーイッ！」と叫びながら投げ続ける女性も。周囲は大笑いして場がなごむ。

続いて「ダーツ」が始まる。的をめがけて１人５本の矢を投げるのだが、男性が必ずしも上手だと言えないところが面白かった。隣のコートで歓声が上がれば、そちらに人が移動する。拍手と歓声に包まれた楽しい空間がそこにはあった。

資源ごみ回収にご協力を

瀬戸会館活動連絡協議会（ゆめじゅく会）では新居浜市の援助を受けて資源ごみの回収を行っています。回収品目は新聞紙、段ボール、雑誌類、古布類、アルミ缶（鉄はダメ）、牛乳パックのみとなっています。このような資源ごみがありましたらいつでも瀬戸会館まで持ってきてください。回収場所は自転車置き場の一角に設けております。収益は「ゆめじゅく会」の活動に役立てます。どうか皆様のご協力をお願いいたします。

１２月８日(日曜日)９：００～１２：００
瀬戸会館の大掃除を実施いたします。
皆さんの御参加お願いいたします。

１１月公演
回転木馬おはなし会

11月6日予定
10:00～11:00
瀬戸児童館

来観会（きてみんかい）

11月は
21日(木)
19:30～

１１月の主な行事予定

13・27日(水)
― 移動図書館
11日(月) ―
人権のつどい日
講演会「心の声に気づいて」
講師
児童福祉課
尾崎　洋子さん
月２回(木) ―
絵本・紙芝居
お話し会
泉川小学校放課後児童クラブ

人権あらかると

阪大生の部落訪問記（2）

角岡伸彦（ノンフィクションライター）

夏休みの暑い日、自転車で３０分くらいこいでゆくと着いた町。「日本一のグローブの町」という看板が、いたるところにありました（グローブ製造は皮革を扱うため部落産業の一つである＝角岡註）。そこで私は、あるグローブ工場を見学させてもらいました。工場で働いているおじさんが、「おみやげいるか？」と言って牛皮の切れはしをくれました（あまりほしくはありませんでした）。工場には明るいおばさんや、かっこいい♡お兄さんが働いていて、私には「部落が怖い所」という印象は全くありませんでした。むしろ温かく、面白い所でした。そのお兄さんは、「自分が部落民ってことにこだわり過ぎると、これまたイカンね。他の人に『君は部落民なのか？』と聞かれても『おう、そうやで!!』と笑って答えてしまえば、もうそれで“部落民は差別されている人間。あわれである”という印象はなくなると思うねんけどな。」と言っていました。また、「オレに何かこわい所あるか？」と聞かれたけど、別段、変態チックな所もありませんでした。

この授業と、実際に部落に行った経験とから私が見出したことは、「やっぱり、部落差別ってオカシイ！なぜこのようなものが残ってるの？」ということでした。

角岡伸彦『はじめての部落問題』（文春新書）より

にぎわう　大島秋祭り

大島秋祭り初日の１０月１２日（土）は、港に渡海船が着くたびに大勢の人を運んでくる。今年は半袖姿も多く、陽光が海面に映えて、顔にあたる潮風も心地いい。船を降りると、正面の「ようこそ大島八幡神社秋季大祭」という横断幕が目に入る。そして美味しそうな匂いが流れてきた。見ると船着き場の広場にはたくさんの屋台が並び、いかやき、たこやきなどの看板がみえる。

神社の鳥居前で待機していた上の町、中の町、西の町の夜宮（よみや）三台が、にぎやかな祭り囃子（ばやし）とともに登場し、それぞれが陣取る。やがてたくさんの太鼓と笛の奏者が位置につく。そろいの着衣の背中には「大西社中」と染め抜かれ、鉢巻き姿も絵になっている。演奏は華麗で力強い和太鼓が、大太鼓と小太鼓でリズミカルな掛け合いを演じ、それに笛の音（ね）が割って入る。会場は惜しみない拍子に包まれた。

いよいよ新居浜東部地区の東浜太鼓台が登場し、大島の秋祭りに友情出演。人々の胸を躍らせる太鼓の音に勇壮な担ぎ手が「ちょーさ～じゃー！」と腹の底から掛け声を響かせる。まだまだ人出はふえているようだった。

「人権のつどい日」にひろう

１０月１１日はＤＶＤ『ほんとの空』を視聴。その内容は、主人公らが住むマンションを舞台に展開される高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題等を投げかけている。

会は三原昇さんの司会で進められ、参加者は４～５名程度の班に分かれて、まずは各自が配布された資料にある『ワークシート１』にそって視聴した内容を整理。次いで班内で話し合い、その状況を全体会に報告するという段取りであった。

報告された内容には「知ろうとしないでいると、周りに感化されてしまう」「偏見、差別、思い込みは無知、無関心から生じる」「それらを断ち切るために正しい知識を身につけることが不可欠」「差別をしない　させない　許さない自分づくりが大切」などがあり、ともに目指す方向をさぐる場になっていた。

ふれあいうんどうかい

10月3日（木）に瀬戸児童館の運動会が開かれた。太陽は遠慮がちに顔を出しているが風は強く、万国旗が大きく上下する。

館長さんから「みなさん、これまで練習してきましたね。おじいちゃんおばあちゃんが来ていますので、がんばりましょう」とご挨拶。プログラムの最初は「秘伝ラーメン体操」で、児童たちは指導の先生を見本に懸命に動く。次の「めざせ！ワールドカップ」は大きなボールをゴール目指して蹴り込むのだが、子どもには容易ではない。先生はマイクで「はい、そうそう、キックキック！だんだん、じょうずになってきたネー!」とやさしく元気づける。風船で作ったタコを乗せた小さな四輪車を、ゴールまでひもを引いて走る「たこちゃんレース」では、風でそのタコが車の外に飛び出して、お母さんがどこまでも追いかけるハプニング！その姿が会場の笑いを誘う。

また、子どもと一緒にかけっこする「よーいどん!」の競技で、ゴール直前であるお母さんだけが急にストップ！あれっ?!と思ったが子どもはそのままゴールに向かう。次の瞬間お母さんは、カメラを構えてはいパチリ！最後の競技「がんばれ！ちびっこアンパンマン」は跳び箱、平均台、トンネルをくぐって、大きなパネルに描かれたバイキンマンをプラスチックのハンマーで叩いてゴールに向かう。それが、思い切り何度も叩く子もいれば、そこで立ち止まり、叩くのをためらう、いじらしい子どもの姿が幾人もいた。元気な声であふれる運動場にキンモクセイの香りが流れてきた。